

「世界の中心における心の信仰」について（要点）

心の信仰

「知性で信じていることは、心に届かなければなりません。」とシャミナード神父は話していました。知性による信仰は重要ですが、それだけでは十分ではありません。愛は、泣いている子供を慰め、安心させるために、夜中でも親を起こす力があります。愛は、うれしいという情動をはるかに超えるものです。愛は、悲しみを、怒りを、失望を人々の心から取り去ります。このように、心の信仰は、神に関しての知識に＜愛＞を吹き込みます、愛する関係を具体的な行動へと駆り立てるのです。

世界の中心で

わたしたち信徒を通してキリストの教会は世界のあらゆる分野において、希望と愛のしるしであり泉です。わたしたちの信仰は、家族や共同体の中で形づくられ育てられます。さらに、教会における福音と命のパンによって強められ育てられます。マリアニストは「自分たちの信仰が自分たちのためだけにあるのではない」ということを知っています。外に向かって宣教するためにわたしたちはいるのです。普段の生活の中でわたしたちの信仰を生きるようにと、わたしたちはひとりひとり呼ばれているのです、この呼びかけに応えることによって、わたしたちは日常の普通のことを神聖なものに変えるのです。心の信仰に基づいた愛は、実際の働きの中で活きた愛としてあふれ出します、わたしたちは世界の中心にイエスの心をもたらすのです。

心の信仰と新しい福音宣教

教皇フランシスコは、「貧しい者のための貧しい教会であるように」、とわたしたちに呼びかけています。わたしたちは、教会の壁を乗り越えて人々の中に入っていくこととなります。こわされ、怒り、悲しむ人々の心に手を差し伸べなければなりません。世界に愛とあわれみの教会を示すことが必要です。イエスのため、他者のための愛に満ち満ちた心が福音宣教の源であることが重要です。そこには教会のマリア的な面があらわされています。マリア的な面とは、人々が、直接的に関わり、真の教会共同体の建設を助けるために、誰をも排除せず、共有の対話を促進するということの中にあらわされます。

現代の人々、特に若者は世界に変化と善をもたらしたいと強く望んでいます。彼らはマリア的な面をもつ教会にひきつけられています。受け入れること、愛すること、福音を生きるように促され、優しい力に満ちた教会にひきつけられるのです。

心の信仰と祈り

マリアニストの祈りは、深い内面性を持っています。信徒マリアニスト共同体はわたしたちにとって祈りの学校です。祈りは、習慣的な応答文を超えて、より個人的な心の旅へと変化します、そして心の奥深いところで、わたしたちは神と出会うのです。

マリアと契約を結んだ心の信仰

マグニフィカトは信仰の祈りのなかで特に優れた祈りです。マリアはみ言葉に注意深くあり続け、自らの生活の中に神のご意思を受け入れながら「心の信仰」を生きました。わたしたちはマリアになり、信仰を識別の基準とし、生活の中心とします。今日、人々は暴力的な物語や想像、さらに人権と尊厳の破壊による攻撃にさらされています。そのなかで、多くの人々は神に対する信仰を失いました。それぞれの文化や国家間に横たわる不信感の中で、わたしたちは、ひとつの国際的な家族としてお互いの経験を分かち合い、受け入れるように、そして世界中の多様性の中でお互いの結びつきを強めるように招かれています。